

IPC 加盟国各位
Eメールにて

2019年1月27日 於ボン

2019 世界パラ水泳選手権大会

IPC 加盟国の皆さま

今朝、IPC 理事会は満場一致で 2019 世界パラ水泳選手権大会の開催権をマレーシアから剥奪することを決定しました。本選手権は 7 月 29 日から 8 月 4 日にクチンで開催される予定でした。

本決定は、マレーシア政府がイスラエルのパラ水泳選手に対し、差別なく安全に選手権に出場するために必要な保証を与えなかったことによるものです。これには、国歌・国旗に関連する IPC プロトコルの完全順守や必要に応じたビザの発給などが含まれます。

今朝、本決定をマレーシア・パラリンピックカウンスル（NPC マレーシア）に通知し、11 時（中央ヨーロッパ標準時）にメディアにプレスリリースを公表します。プレスリリースは本状の 3-4 ページに掲載しておりますが、本情報はメディアに公開されるまで極秘に取り扱っていただけますようお願い申し上げます。

理事会の決定を受けて、IPC は東京 2020 パラリンピック競技大会の出場枠がかかるこの重要な世界選手権の新たな開催地を探しています。7 月末から 8 月頭にかけてピークを持ってくるトレーニングスケジュールで動いている選手を混乱させないためにも、同じ日程や条件で本選手権を開催できるよう努めてまいります。しかしながら、直面した状況を踏まえて柔軟に対応していく必要がでてくるかもしれません。

IPC は、2019 世界パラ水泳選手権大会のすべての開催都市候補に対し、2019 年 2 月 11 日までに大会開催の関心を示していただけますようお願い申し上げます。

敬具

国際パラリンピック委員会
会長
Andrew Parsons

IPC プレスリリース： 情報解禁時間 11：00（中央ヨーロッパ標準時）

IPC が 2019 世界パラ水泳選手権のマレーシアの開催権を剥奪

国際パラリンピック委員会（IPC）は 27 日（日）、7 月 29 日から 8 月 4 日にクチンで開催予定だった 2019 世界パラ水泳選手権大会の開催権をマレーシアから剥奪した。

この決定は、マレーシア政府がイスラエルのパラ水泳選手に対し、差別なく安全に選手権に出場するために必要な保証をしなかったとして、イギリス・ロンドンで開催された IPC 理事会の会議で下された。これには、国歌・国旗に関連する IPC プロトコルの完全順守や必要に応じたビザの発給などが含まれる。

IPC の Andrew Parsons 会長は次のようにコメント：「すべての世界選手権は、すべての出場資格のある選手や国に開かれている必要があり、安全かつ差別なく出場できるものでなくてはならない。開催国が政治的な理由で特定の国の選手を除外するならば、われわれとしては新たな開催地を探す以外に選択肢はない。

パラリンピックムーブメントは、今までも、そしてこれからも常に、エクスクルージョン（排除）ではなく、インクルージョンを推進するという強い思いで動かされてきました。この問題に関与した国に関係なく、IPC はたとえ他国で同様の状況が起こったとしても同様の判断を下していきます。

2017 年 9 月に IPC がマレーシア・パラリンピックカOUNシル（NPC マレーシア）と世界パラ水泳連盟の開催の契約を締結した際、われわれは出場資格のあるすべてのアスリートと国が安全に大会に出場できるものと確信しておりました。

その後、政権交代が起こり、マレーシア新政権の考えは異なるものでした。政治とスポーツは決して良い組み合わせではなく、イスラエルの選手がマレーシアで競うことが許されなかったことに失望しています。

本日の理事会の決定を受けて、IPC は東京 2020 パラリンピック競技大会の出場枠がかかるこの重要な世界選手権の新たな開催地を探しています。

7 月末から 8 月頭にかけてピークを持ってくるトレーニングスケジュールで動いている選手を混乱させないためにも、同じ日程や条件で世界選手権を開催できるよう努力してまいります。しかし、この直面した状況を踏まえて柔軟に対応していく必要がでてくるかもしれません」

IPC 選手評議会の Chelsey Gotell 会長は以下のように述べた：「IPC 選手評議会は、この問題に関して世界各地の選手から多くの問い合わせを受けています。想定されるあらゆる結果を話し合うとともに、世界パラ水泳連盟の選手アドバイザリーグループと連携を取ってきました。そして、この状況に関する意見をまとめ、IPC 理事会の協議と決定に選手の声を強く反映できるようにしていきます。

この決定は、スポーツと政治を切り離して考える重要性を強調しただけでなく、IPC公認の大会において、すべての出場資格ある選手と国に開かれている大会を開催するという、われわれの基本的なモラルや倫理原則に対するIPCの責任を強固なものにしました」

クチンで行われる予定だった大会には、160以上の世界タイトルをかけて60カ国からおよそ600人の選手が出場する見込みだった。IPCは、2019世界パラ水泳選手権大会のすべての開催都市候補に対し、2019年2月11日までに大会開催の関心を示すよう働きかける。

完